

## 5 学生の受け入れ

### 進捗状況報告

前年度に引き続き学内外を対象とした入試説明会を春学期で2回開催しており、秋学期も2回開催の予定である。これらの説明会はホームページ上で案内しており、学内生のみではなく、学外生の参加も可能である。大学院の学生に、院での生活や研究などについて具体的に話してもらう機会を作り、大学院入学に不安を持っている学部学生に大学院での生活をイメージできるような工夫をしている。入学者選抜の多様性については、2006年度入試からTOFEL、TOEIC、英検等の資格を有するものについては外国語試験を免除するなどの措置を取った。これにより外国語能力に優れた学生など多様な学生を確保することが期待できる。

2007年度の大学院生の内訳は、内部からの進学者前期課程7人、後期課程2人、内留生前期課程2人、後期課程1人、外部からの入学者前期課程5人、後期課程1人、内留生前期課程4人、後期課程1人となっており、内部進学者が多数を占めるのではなく、外部生、留学生に対して門戸を広く開いている。

学部学生が4年次から計画的に大学院での研究に向けた準備ができるよう、入試時期を早くする特別入試を実施したが今年度は応募者はなかった。さらに広報し、周知徹底してゆく。

### 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

入学者の定員確保のため春学期、秋学期各2回の入試説明会をさらに充実させる。またホームページを通して入試関連の情報を流し、他研究科にも働きかける。

### 学内第三者評価

学生の確保について努力していると認められる。学部生の就職状況の変化など相当な理由はあるだろうが、今後とも専門職業人の養成などの目標を明確にし就職の実績を作るなど一層の努力が期待される。2007年度の学内第三者評価にあるとおり、入学者の定員管理についての記述が求められる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。  
特に博士課程の定員に対する充足率が低くなっている。様々な施策の試行の結果を分析した上で、改善策を推進することが期待される。